CITY OF YOKOHAMA

次世代活躍推進特別委員会
令和７年９月２９日
政策経営局

横浜市若者世代の将来像に関する意識調査の結果概要について

政策経営局

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

横浜市若者世代の将来像に関する意識調査の概要（アンケート）

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER
YOKOHAMA

【調査の目的】

一般的に、現在の社会や行政に不満を抱いていると言われる若者世代に対し、内面的な意識や考え方等について把握し、若者世代の定住促進や市内就業等にもつながる必要な政策等に生かすために実施しました。

〇調査方法
インターネット回答方式（回答画面の2次元コードを印刷したハガキを郵送）

〇調査期間
令和6年11月25日～12月13日

〇調査対象者
横浜市内に居住する満15歳以上34歳以下（令和6年4月1日現在）の男女10,000人

〇抽出方法
住民基本台帳からの無作為抽出

〇有効回答数
2,713 件（有効回答率27.1%）

横浜市若者世代の将来像に関する意識調査の概要（設問項目）

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER
YOKOHAMA

若者世代を取り巻く課題やニーズを把握し、少子化対策に資する効果的な施策の事業化につなげるため、以下の考えに基づいて設問項目を設定し、調査を実施しました。

	設問項目	設問の目的	備考
日常生活に関する意識	生活満足度（問1）	年代別の意識を細かく把握するとともに、傾向を把握する	※インタビュー調査あり
	自己効力感（問2）	年代別の意識を細かく把握するとともに、傾向を把握する	
	仕事を選択する上で大事にすること（問7）	年代別の意識を細かく把握するとともに、傾向を把握する	
	居住場所の選択理由【結婚直後】（問10）	選択理由を把握し、他調査の傾向と比較する	
	居住場所の選択理由【子育て期間】（問11）	選択理由を把握し、他調査の傾向と比較する	
結婚や子育てに関する意識	子育てと仕事の理想の姿（問3）	理想と現実の姿のギャップを把握する	※インタビュー調査あり
	子育てと仕事のなりそうな姿（問4）	理想と現実の姿のギャップを把握する	※インタビュー調査あり
	結婚のイメージ（問5） ＋ 望まない理由（問8）	意識と望まない理由を把握する	※インタビュー調査あり
	こども・子育てのイメージ（問6） ＋ 望まない理由（問9） ＋ 理想のこども数（問12）	意識と望まない理由を把握する	※インタビュー調査あり
	少子化対策で行政に求めること（問13）	行政に求められる取組を把握し、施策検討に生かす	※インタビュー調査あり

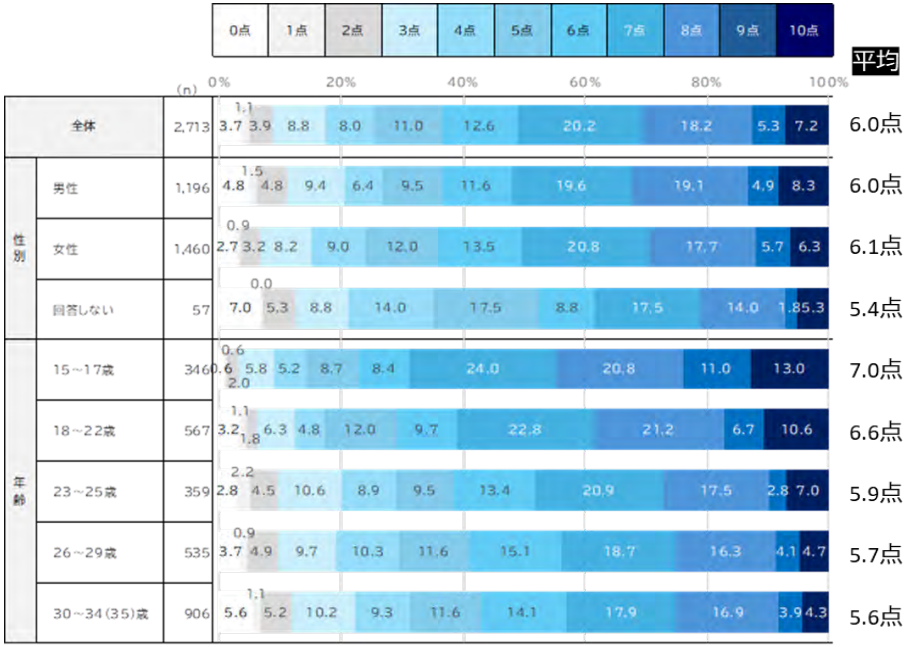
横浜市若者世代の将来像に関する意識調査のまとめ

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER
YOKOHAMA

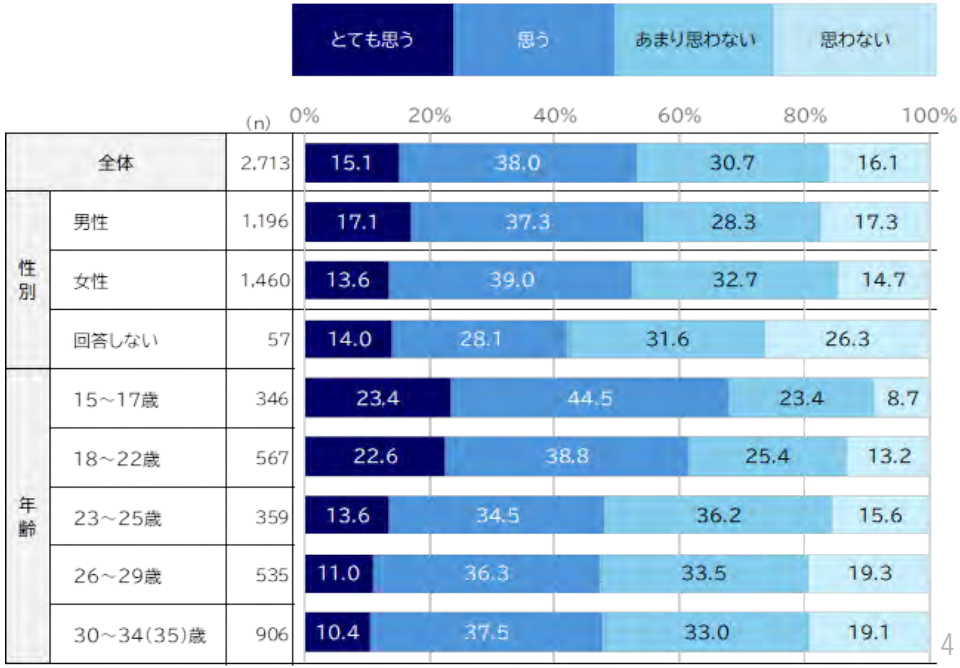
生活満足度
自己肯定感

・生活満足度では、18～22歳では平均点が6.6点なのに対し、23～25歳では平均点が5.9点と大きく減少している。
・自己肯定感では、年齢が上がるごとに自分の将来が楽しみという回答が減少している。
・インタビューでは、社会人になった際に、責任や経済的負担、社会の厳しさに直面することで、満足度が低下したという声があった。

■生活満足度



■自己肯定感（自分の将来が楽しみ）



横浜市若者世代の将来像に関する意識調査のまとめ

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER
YOKOHAMA

理想の生き方

子育てと仕事との関係で、**理想の生き方**では、
「結婚し、こどもを持ち、仕事を続ける」が最多の**49.0%**、「結婚せず（パートナーを持たず）、仕事を続ける」が**9.2%**

子育てと仕事との関係で、**理想は理想として、実際になりそうな（既になっている）生き方**では、
「結婚し、こどもを持ち、仕事を続ける」が最多の**38.5%**、「結婚せず（パートナーを持たず）、仕事を続ける」が**29.8%**

➡ **理想と実際になりそうな姿にギャップ**が生じている。インタビューでは、**経済的な不安、子育てへの不安**の声があった。

■理想と現実のギャップ（アンケート）

			(n)	結婚せず、仕事を続ける	結婚する、こどもは持たず、仕事を続ける	結婚する、こどもは持たず、結婚時に退職	結婚し、こどもを持ち、仕事を続ける	結婚し、こどもを持つ。結婚・出産時に退職し、その後復職	結婚し、こどもを持つ。結婚・出産時に退職する	答えたくない	その他
全体		理想	2,713	9.2	10.5	1.3	49.0	17.7	4.9	3.8	3.6
		実際		29.8	11.3	0.7	38.5	9.7	2.6	4.8	2.7
性別	男性	理想	1,196	11.3	8.9	0.6	64.8	5.6	2.0	3.6	3.3
		実際		34.8	10.8	0.5	44.3	2.3	0.5	4.2	2.7
	女性	理想	1,460	7.3	12.1	1.8	37.1	28.1	7.3	2.9	3.4
		実際		25.8	12.0	0.8	34.7	15.9	4.2	4.1	2.5
	回答しない	理想	57	15.8	5.3	3.5	21.1	5.3	5.3	29.8	14.0
		実際		28.1	5.3	1.8	14.0	5.3	3.5	33.3	8.8
年齢	15～17歳	理想	346	13.6	15.6	0.9	41.6	16.5	2.9	4.9	4.0
		実際		36.1	6.9	0.3	28.9	11.6	3.5	7.5	5.2
	18～22歳	理想	567	15.2	12.2	0.9	43.7	16.8	4.2	4.9	2.1
		実際		40.7	9.2	1.1	27.3	9.9	2.5	6.3	3.0
	23～25歳	理想	359	7.0	12.5	2.2	47.9	16.7	4.7	3.9	5.0
		実際		36.8	14.8	0.3	28.7	10.0	1.7	4.2	3.6
	26～29歳	理想	535	6.4	9.7	1.3	52.3	18.7	6.5	1.9	3.2
		実際		27.9	13.8	0.7	43.4	8.8	1.7	2.6	1.1
	30～34(35)歳	理想	906	6.4	7.3	1.3	53.5	18.5	5.3	3.6	4.0
		実際		18.9	11.5	0.8	50.2	9.2	3.2	4.2	2.1

■理想と現実のギャップ（インタビュー）

20代～30代の若者たちは、結婚や子育てに対して漠然とした不安や現実的な障壁を感じています。特に経済的な不安が大きく、収入の不安定さや物価上昇に対する賃金の低さが、結婚や子育てへの意欲を低下させています。また、SNSなどで発信されるネガティブな情報が将来へのイメージを暗くし、行動をためらわせる要因にもなっています。

さらに、共働きが一般化する中で、育児の分担や夫婦の時間の確保に対する懸念もあり、理想のキャリアやライフスタイルとの両立が難しいと感じる人もいます。出会いの機会の減少や、推し活など個人の趣味・価値観の多様化も、結婚や子育てを「当然の選択」ではなく「選択肢の一つ」として捉える傾向を強めています。

このような背景から、結婚や子育てに前向きになれず、慎重に考えすぎるうちに時間が過ぎてしまうという声も多く聞かれます。

（Copilotによる要約）

横浜市若者世代の将来像に関する意識調査のまとめ

結婚のイメージ

結婚のイメージでは、
・1位：楽しみや喜び（62.1%）、2位：精神的な安らぎ（60.1%）、3位：親や周囲の安心（35.6%）
将来結婚しない理由では、
・性別では、「経済的に厳しいと思うから」は男性の回答割合が高く、「1人でいる方が精神的な負担が少ない」「こどもを育てたいと思っていない」「家事などの負担が増える」は女性の回答割合が高い。
・年代が上がるほど、「経済的に厳しい」と回答した割合が高い。

➡ **結婚は「負担・苦労」のイメージ**が大きい。インタビューでは、SNSからネガティブな情報が入ってくる、自分の時間が制限されるとの声があった。一方で、配偶者がいる方は、ポジティブなイメージを抱いている傾向がある。

■結婚のイメージ

		(n)	楽しみや喜び	自身の成長	精神的な安らぎ	親や周囲の安心	義務や責任、世間体	拘束感や閉そく感	負担や苦労	答えたくない	その他
全体		2,713	62.1	25.8	60.1	35.6	30.4	12.8	23.2	1.3	2.7
性別	男性	1,196	63.8	29.5	58.9	29.8	34.2	14.6	24.8	1.3	2.1
	女性	1,460	62.1	23.2	61.9	40.4	27.1	11.1	21.7	1.0	2.7
	回答しない	57	29.8	15.8	36.8	31.6	38.6	19.3	26.3	10.5	12.3
年齢	15～17歳	346	70.2	29.5	53.5	27.7	28.6	12.7	27.5	1.4	2.0
	18～22歳	567	58.0	22.8	55.7	31.4	31.2	16.8	32.1	1.8	1.9
	23～25歳	359	56.3	24.0	55.7	33.7	33.1	15.3	22.0	2.8	4.2
	26～29歳	535	62.8	26.5	63.7	40.6	30.8	10.5	19.1	0.6	2.4
	未婚	306	51.3	21.2	58.5	44.4	38.6	13.4	24.2	0.7	3.3
	配偶者あり	223	78.0	34.1	70.9	35.9	21.1	6.3	12.1	0.4	0.9
	30～34(35)歳	906	63.6	26.7	64.9	39.0	29.4	10.8	18.9	0.8	2.9
	未婚	314	42.0	22.9	48.1	42.4	38.5	20.4	34.4	0.3	5.1
	配偶者あり	584	75.0	28.8	74.1	37.3	24.5	5.7	10.4	0.9	1.5

■将来結婚しない理由

		(n)	恋人・パートナーがいないから／見つからないと思うから	1人でいる方が、精神的な負担が少ないから	経済的に厳しいと思うから	自由を失いたくないから	こどもを育てたいと思っていないから	家事などの生活における負担が増えるから	家庭を築くよりも優先したいことがあるから	結婚せず、自分の親や兄弟姉妹と暮らしたいから	周りの人にしない方がよいと言われるから	答えたくない	その他
全体		683	71.9	51.0	33.8	33.5	11.1	10.8	8.3	1.3	0.7	0.9	4.4
性別	男性	350	75.1	45.4	42.9	32.0	7.4	8.3	7.4	1.1	1.1	0.6	3.1
	女性	318	68.2	56.9	23.6	35.5	15.7	14.2	9.4	1.6	0.3	0.9	5.7
	回答しない	15	73.3	53.3	40.0	26.7	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	6.7	6.7
年齢	18～22歳	231	70.6	52.4	26.0	36.8	12.6	11.3	6.9	1.3	1.3	0.4	3.0
	23～25歳	132	70.5	56.1	28.0	32.6	12.1	10.6	10.6	1.5	0.0	2.3	4.5
	26～29歳	149	74.5	41.6	36.2	30.9	9.4	10.1	8.7	1.3	0.0	0.7	6.7
	30～34(35)歳	171	72.5	53.2	46.8	32.2	9.9	11.1	8.2	1.2	1.2	0.6	4.1

横浜市若者世代の将来像に関する意識調査のまとめ

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER
YOKOHAMA

こども・子育てのイメージ

こども・子育てのイメージでは、
・1位：楽しみや喜び（68.9%）、2位：**負担や苦労（54.6%）**、3位：自身の成長（45.3%）
こどもを希望しない理由は、
・性別では、「精神的な負担が大きいと思うから」「体力的な負担が大きいと思うから」は女性の回答割合が高く、「精神的な負担が大きいと思うから」については、男性と比較して28.5ポイント高い。
・29歳までは年代が上がるほど「仕事との両立が難しい」と回答した割合が高まる。

➡ **こども・子育ては「負担・苦労」のイメージ**が大きい。インタビューでは、**（子育てを）経験していないことからくる不安**、SNSからネガティブな情報が入ってくるとの声があった。

■こども・子育てのイメージ

		(n)	楽しみや喜び	自身の成長	精神的な安らぎ	親や周囲の安心	義務や責任、世間体	拘束感や閉そく感	負担や苦労	答えたくない	その他
全体		2,713	68.9	45.3	20.5	17.8	38.0	15.7	54.6	1.3	1.7
性別	男性	1,196	70.6	43.5	30.3	15.9	38.8	13.1	51.3	1.3	1.6
	女性	1,460	68.6	47.8	13.2	19.7	37.6	17.3	57.0	0.8	1.6
	回答しない	57	42.1	17.5	3.5	8.8	33.3	28.1	59.6	12.3	8.8
年齢	15～17歳	346	71.4	36.4	27.5	12.7	41.9	14.5	58.1	1.4	1.7
	18～22歳	567	63.1	39.5	16.0	15.7	42.9	20.1	62.3	1.6	0.9
	23～25歳	359	63.0	39.0	16.2	17.8	39.0	15.9	59.3	2.2	2.5
	26～29歳	535	69.2	49.2	18.3	20.9	36.4	17.0	52.7	0.9	2.1
	こども無し	445	64.9	46.3	15.5	23.1	39.3	19.1	54.8	0.9	2.2
	こども有り	90	90.0	63.3	32.2	10.0	22.2	6.7	42.2	1.1	1.1
	30～34(35)歳	906	73.7	52.4	23.7	19.2	34.1	12.5	47.6	0.8	1.8
	こども無し	479	58.5	43.8	16.1	20.3	40.7	19.6	58.7	1.0	2.7
	こども有り	427	90.9	62.1	32.3	18.0	26.7	4.4	35.1	0.5	0.7

■こどもを希望しない理由

		(n)	金銭的な負担が大きいと思うから	時間的な制約が大きいと思うから	精神的な負担が大きいと思うから	仕事との両立が難しいと思うから	体力的な負担が大きいと思うから	健康上・身体的な理由で、妊娠が難しいと思うから	パートナーが希望しないと思うから	パートナーがいないと思うから	答えたくない	その他
全体		301	79.4	45.8	40.9	36.5	20.9	8.6	6.0	5.6	1.0	6.3
性別	男性	123	82.9	47.2	24.4	37.4	14.6	6.5	9.8	8.1	0.0	6.5
	女性	174	77.0	44.8	52.9	36.8	25.3	9.8	3.4	4.0	1.7	6.3
	回答しない	4	75.0	50.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	18～22歳	58	82.8	51.7	48.3	31.0	24.1	1.7	6.9	3.4	1.7	3.4
	23～25歳	54	83.3	40.7	38.9	42.6	13.0	0.0	3.7	3.7	0.0	11.1
	26～29歳	78	85.9	42.3	41.0	48.7	17.9	7.7	7.7	5.1	0.0	3.8
	30～34(35)歳	111	71.2	47.7	37.8	27.9	25.2	17.1	5.4	8.1	1.8	7.2

横浜市若者世代の将来像に関する意識調査のまとめ

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER
YOKOHAMA

少子化対策で行政に望むこと

結婚・妊娠・出産・子育ての希望を実現するために、行政に期待する政策では、
1位：出産や子育てに係る直接的な経済支援（54.5%）
2位：雇用の安定（賃金の上昇、非正規雇用と正規雇用における給与の差の縮小）（49.4%）
3位：教育の無償化（42.9%）

➡ 【出産や子育てに係る経済的な負担を軽減し、若者が将来の展望が描ける状況が望まれている。インタビューでは、子育て期間の経済的不安の声があった。

■行政に期待する施策（アンケート）

		(n)	出産や子育てに係る直接的な経済支援	雇用の安定（賃金の上昇、非正規格差の縮小）	教育の無償化	結婚、出産しても働き続けられる環境整備の推進	時間、場所などの柔軟な働き方の推進	長時間労働の是正などの働き方改革の推進	結婚後の住宅支援	保育所等の待機児童対策	放課後児童クラブ等の待機児童対策	出会いの場の創出（公的マッチングアプリ、婚活イベント）	その他
全体		2,367	54.5	49.4	42.9	28.9	27.5	24.1	22.2	20.7	8.2	5.8	4.8
	未婚	1,512	44.4	57.5	36.8	30.2	27.7	27.9	20.0	17.1	6.0	8.7	5.2
	こども有り	534	73.0	32.0	62.7	25.7	27.5	17.2	24.0	25.3	15.7	1.3	3.7
性別	男性	1,029	49.1	50.7	41.5	22.9	25.1	26.8	28.0	18.8	7.7	8.7	5.4
	女性	1,289	59.7	48.5	44.4	33.7	29.4	22.0	17.8	22.4	8.8	3.3	3.9
	回答しない	49	28.6	44.9	34.7	28.6	28.6	24.5	18.4	14.3	6.1	8.2	16.3
年齢	18～22歳	567	43.9	58.4	43.9	34.2	28.0	28.0	16.4	16.4	6.0	4.2	3.4
	23～25歳	359	54.9	55.4	36.8	30.1	25.1	28.1	25.3	17.3	6.4	5.6	5.0
	26～29歳	535	58.5	47.9	40.9	28.0	26.2	21.3	28.0	20.7	5.8	8.0	4.3
	30～34(35)歳	906	58.5	42.3	45.9	25.6	28.9	21.7	21.2	24.6	11.8	5.5	6.0

■行政に期待する施策（インタビュー）

20代～30代の若者は、結婚や子育てに対して強い経済的な不安を抱えており、行政には「出会いの場の提供」よりも「金銭面での直接的な支援」を優先してほしいという声が多く見られます。物価上昇に対して賃金が追いつかず、結婚や子育てを現実的に考えるには経済的な安定が不可欠とされています。

また、子育ては長期的な取り組みであり、結婚よりも継続的な行政支援が必要だという認識もあります。一方で、出会いの場の減少が交際の機会を減らしているという指摘もあり、行政による安心感のある出会い支援（街コンや本人確認付きマッチングアプリなど）への期待も一部にあります。

さらに、自治体ごとの支援格差に対する不満もあり、国が一律で支援を行うことで、住む場所による不公平をなくすべきだという意見も出ています。

（Copilotによる要約）

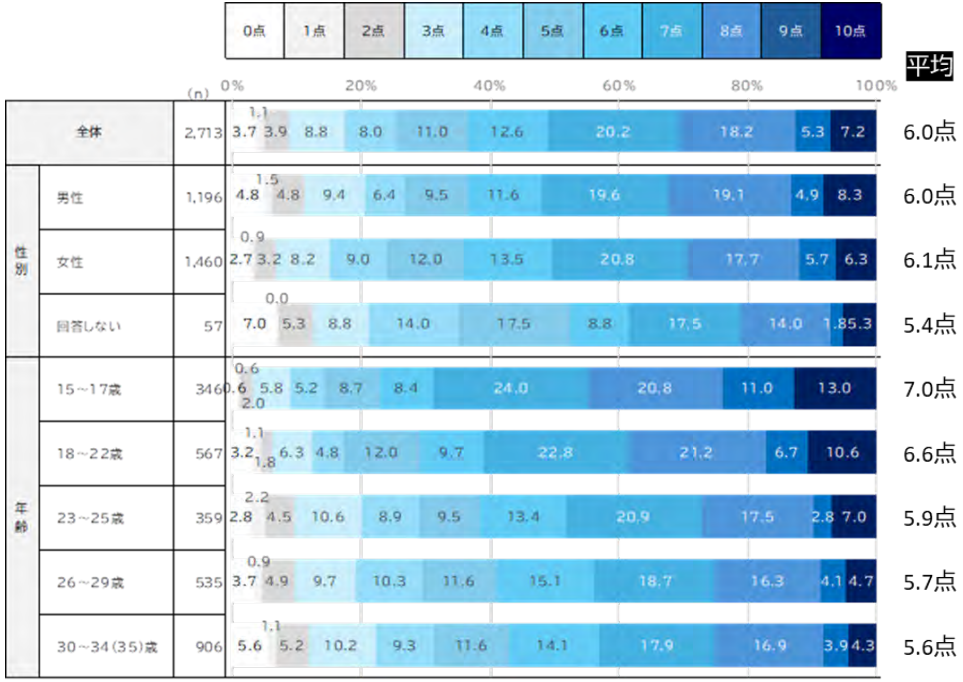
問１　生活の満足度

・男女間で満足度に大きな差は生じていない
・18～22歳では平均点が6.6点なのに対し、23～25歳では平均点が5.9点と大きく減少している。

◆調査結果

【設問】

あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。「0（まったく満足していない）」から「10（十分に満足している）」の数字を選んでください。



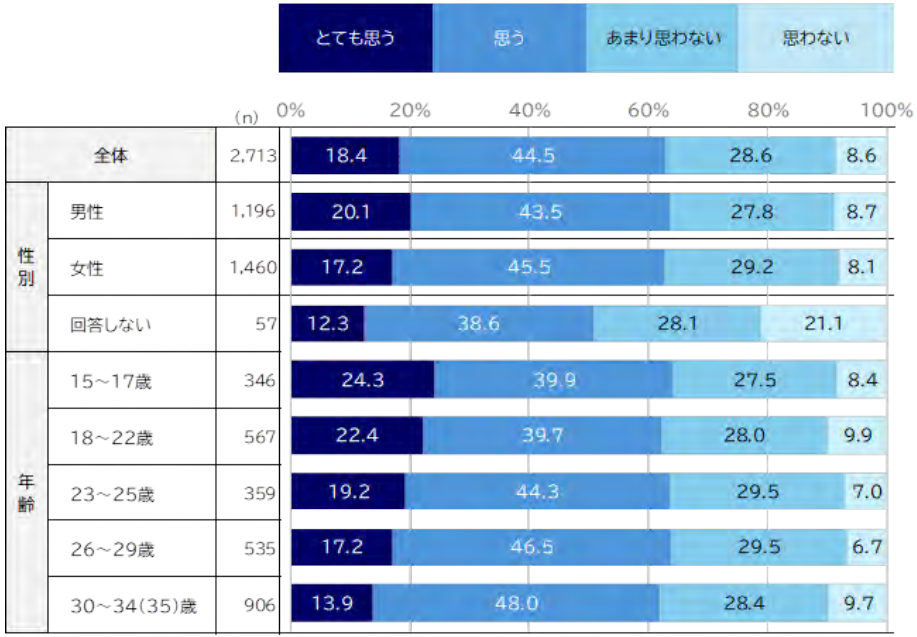
問2-（1）　自己効力感（自分の事が好き）

・「とても思う」「思う」の合計は全体で62.9%。
・年代が上がるほど「とても思う」回答割合は低くなるが、「とても思う」「思う」の合計ではほぼ変化は見られない。

◆調査結果

【設問】

あなたの思いや気持ちについて、次のことがどのくらいあてはまりますか。それぞれの項目について、もっともあてはまるものを1つだけ選んでください。
(1)自分のことが好きだ



		(n)	とても思う	思う	あまり思わない	思わない
全体		2,713	18.4	44.5	28.6	8.6
性別	男性	1,196	20.1	43.5	27.8	8.7
性別	女性	1,460	17.2	45.5	29.2	8.1
性別	回答しない	57	12.3	38.6	28.1	21.1
年齢	15～17歳	346	24.3	39.9	27.5	8.4
年齢	18～22歳	567	22.4	39.7	28.0	9.9
年齢	23～25歳	359	19.2	44.3	29.5	7.0
年齢	26～29歳	535	17.2	46.5	29.5	6.7
年齢	30～34(35)歳	906	13.9	48.0	28.4	9.7

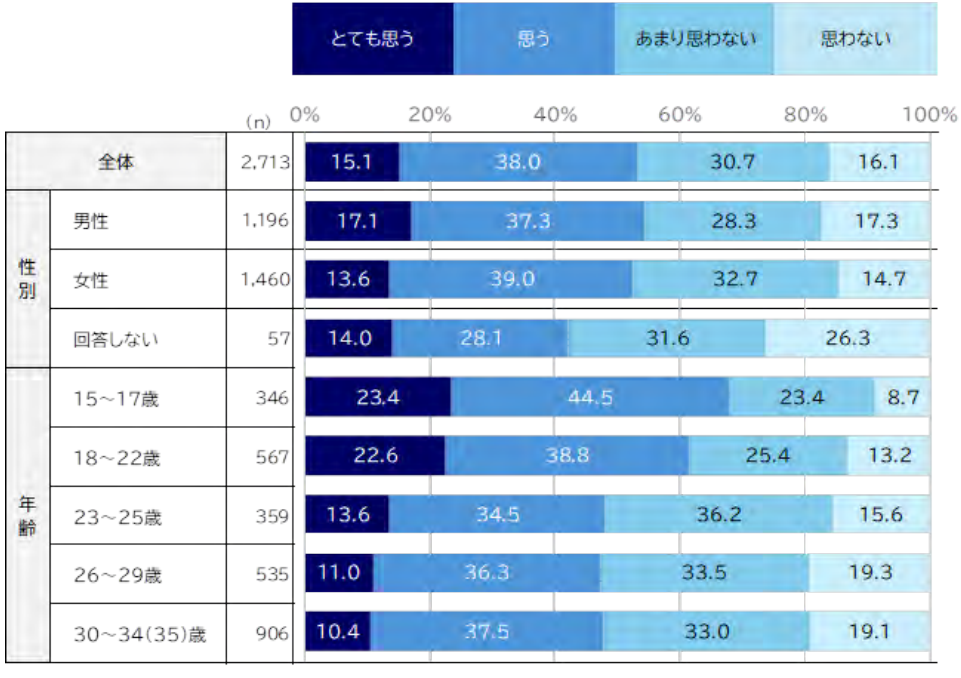
問2-（2）　自己効力感（自分の将来が楽しみ）

・「とても思う」「思う」の合計は全体で53.1%。
・年代が上がるほど「とても思う」と回答した割合は低くなり、18～22歳では22.6%が「とても思う」と回答したのに対し、23～25歳では13.6%と大きく減少している。

◆調査結果

【設問】

あなたの思いや気持ちについて、次のことがどのくらいあてはまりますか。それぞれの項目について、もっともあてはまるものを1つだけ選んでください。
(2)自分の将来が楽しみ



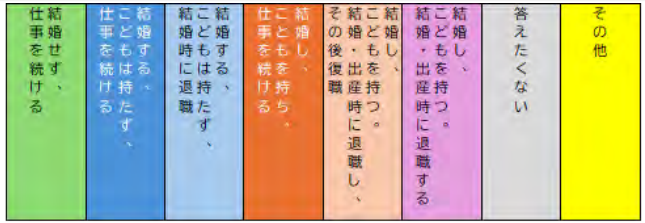
問３　理想の生き方

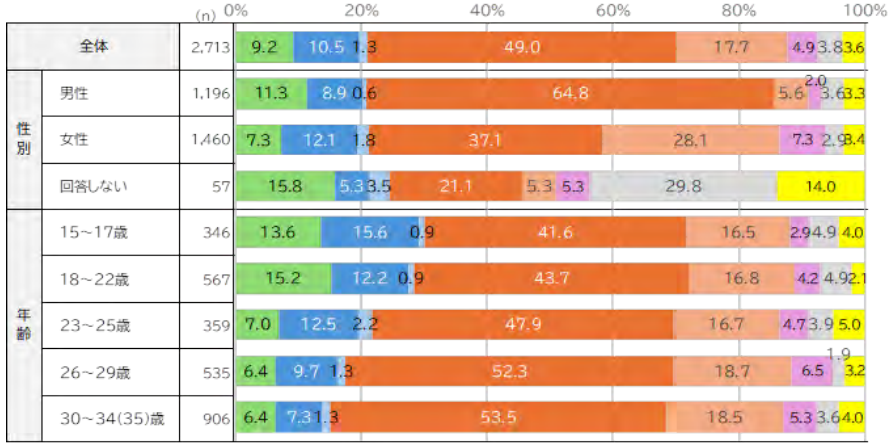
・女性：「結婚し、こどもを持ち、仕事を続ける」が37.1%で最も多いが、出産時に退職し、その後復職する」が28.1%で続く。「結婚する、子どもは持たず、仕事を続ける」が12.1%、結婚・出産時に退職が7.3%といずれも男性よりも多い。
・年代別では、23歳以上と比べて22歳以下では「結婚せず、仕事を続ける」の割合が多い。また、若い世代ほど、「結婚する、子どもは持たず、仕事を続ける」の割合が高い。

◆調査結果

【設問】

子育てと仕事との関係で、あなたの理想の生き方は次のどれですか。最も近いと思われるものを1つだけ選んでください。





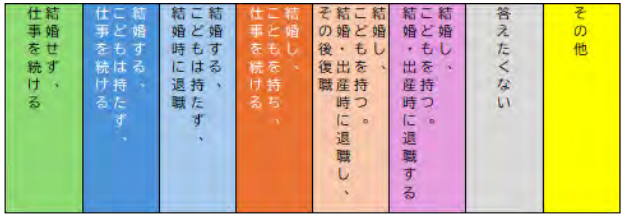
問４　実際になりそうな（なっている）生き方

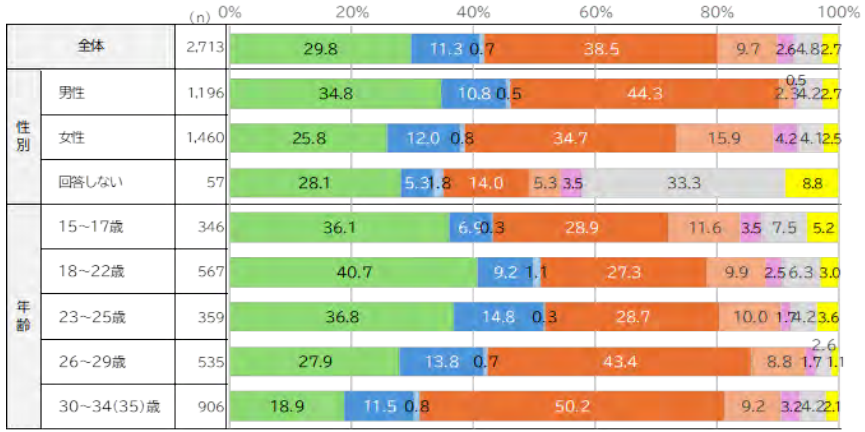
・男性：「結婚し、こどもを持ち、仕事を続ける」が44.3%で最も多く、「結婚せず、仕事を続ける」（34.8%）と続く。
・女性：「結婚し、こどもを持ち、仕事を続ける」が34.7%で最も多く、「結婚せず、仕事を続ける」（25.8%）、「結婚・出産時に退職し、その後復職」（15.9%）と続く。
・15～17歳を除いた年代別で見ると、若い世代ほど「結婚せず、仕事を続ける」の割合が高くなる。

◆調査結果

【設問】

子育てと仕事との関係で、理想は理想として、実際になりそうな（既になっている）生き方は次のどれですか。最も近いと思われるものを1つだけ選んでください。





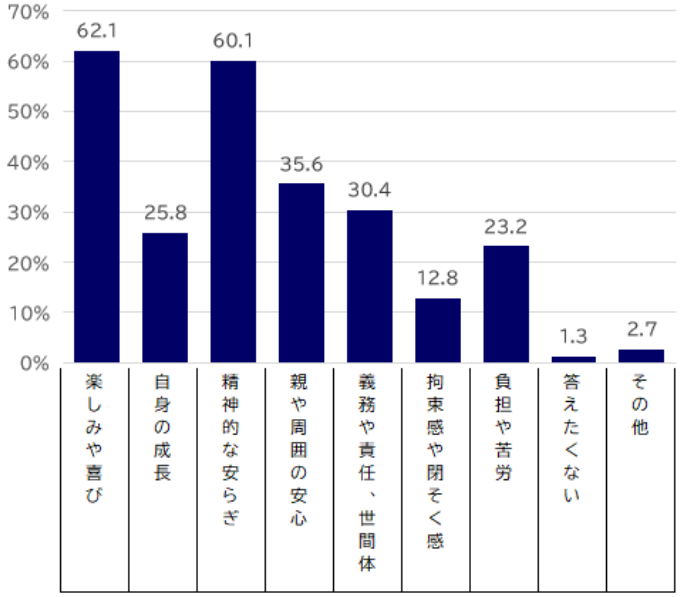
問５　結婚に対するイメージ（全体）

・全体として「楽しみや喜び」「精神的なやすらぎ」といったポジティブな要素の回答割合が高い。

◆調査結果

【設問】

あなたが思う結婚のイメージはどのようなものですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



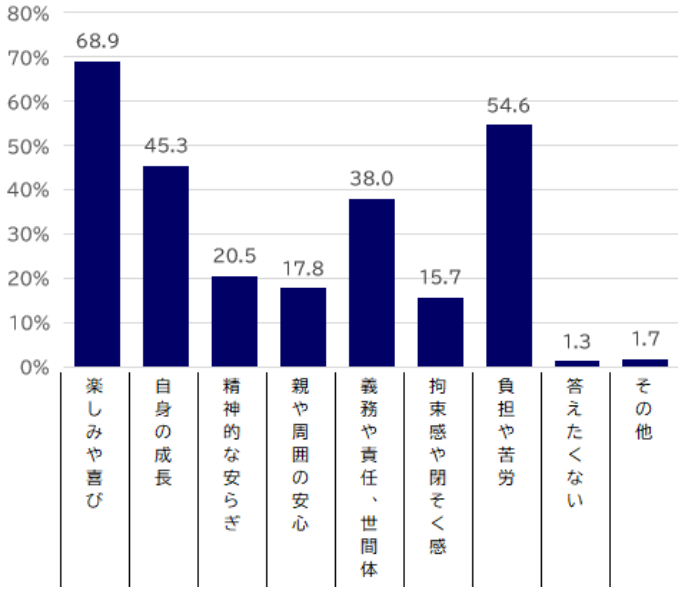
問６　子育てに対するイメージ（全体）

・ポジティブ寄り／ネガティブ寄りに回答を分類した場合、全体としては結婚に対するイメージと比べると相対的にネガティブ寄りのイメージが強くなっている。

◆調査結果

【設問】

あなたが思うこどもや子育てのイメージはどのようなものですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



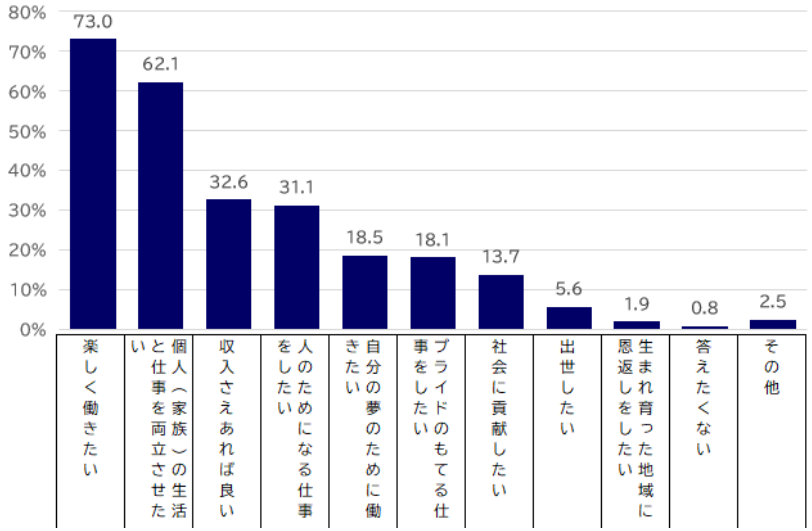
問７　仕事を選ぶうえで大事にする（した）こと（全体）

・「楽しく働きたい」（73.0%）、「個人（家族）の生活と仕事を両立させたい」（62.1%）、「収入さえあれば良い」（32.6%）、「人のためになる仕事をしたい」（31.1%）と続く。

◆調査結果

【設問】

あなたが思う仕事を選ぶうえで大事にすること（したこと）はどのようなものですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



問７　仕事を選ぶうえで大事にする（した）こと（性別×年代）

・個人（家族）の生活と仕事を両立させたいと回答した割合は、女性の方が男性よりも9.6ポイント高い。
・年代別に見ると、「自分の夢のために働きたい」と回答した割合は年代が上がるほど低くなるが、「個人（家族）の生活と仕事を両立させたい」と回答した割合は年代が上がるほど高くなる。

◆調査結果

【分析】

仕事を選ぶうえで大事にする（した）ことについて、性別と年代毎に分析を実施

		(n)	楽しく働きたい	個人（家族）の生活と仕事を両立させたい	収入さえあれば良い	人のためになる仕事をしたい	自分の夢のために働きたい	プライドのもてる仕事をしたい	社会に貢献したい	出世したい	生まれ育った地域に恩返しをしたい	答えたくない	その他
全体		2,713	73.0	62.1	32.6	31.1	18.5	18.1	13.7	5.6	1.9	0.8	2.5
性別	男性	1,196	71.7	57.3	32.9	31.3	20.9	19.7	16.5	8.0	2.7	0.8	2.1
	女性	1,460	74.9	66.9	32.2	31.6	16.8	17.1	11.7	3.5	1.3	0.5	2.5
	回答しない	57	52.6	40.4	36.8	15.8	14.0	10.5	7.0	8.8	1.8	8.8	14.0
年齢	15～17歳	346	80.9	47.7	25.4	32.7	33.5	17.9	13.0	5.5	2.0	1.4	2.6
	18～22歳	567	75.3	52.6	27.7	34.2	25.9	18.0	15.0	7.2	3.0	1.2	1.8
	23～25歳	359	72.4	59.9	35.4	28.1	14.8	19.8	14.8	6.1	2.5	0.8	5.6
	26～29歳	535	69.7	70.1	39.8	25.6	16.4	18.1	11.4	5.0	2.6	0.2	1.1
	30～34(35)歳	906	70.8	69.8	33.0	33.0	10.9	17.5	14.1	4.7	0.6	0.6	2.6

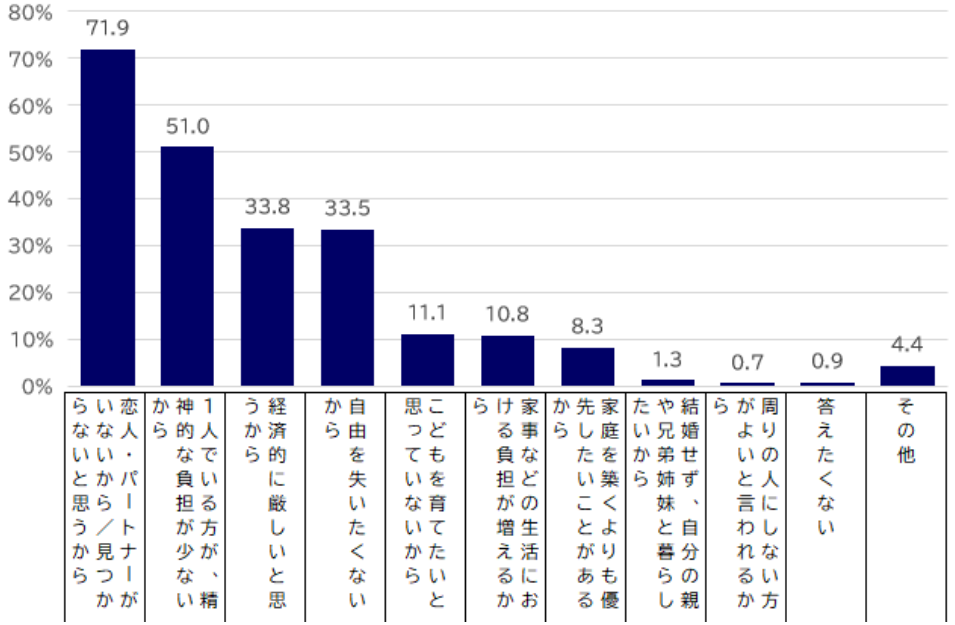
問８　将来結婚しないと思う理由（全体）

・「恋人・パートナーがいないから／見つからないと思うから」（71.9%）、「1人でいる方が、精神的な負担が少ないから」（51.0%）、「経済的に厳しいと思うから」（33.8%）、「自由を失いたくないから」（33.5%）と続く。

◆調査結果

【設問】

あなたが、将来結婚しないと思う理由について、
あてはまるものを3つまで選んでください。
※問4で結婚しないと答えた人



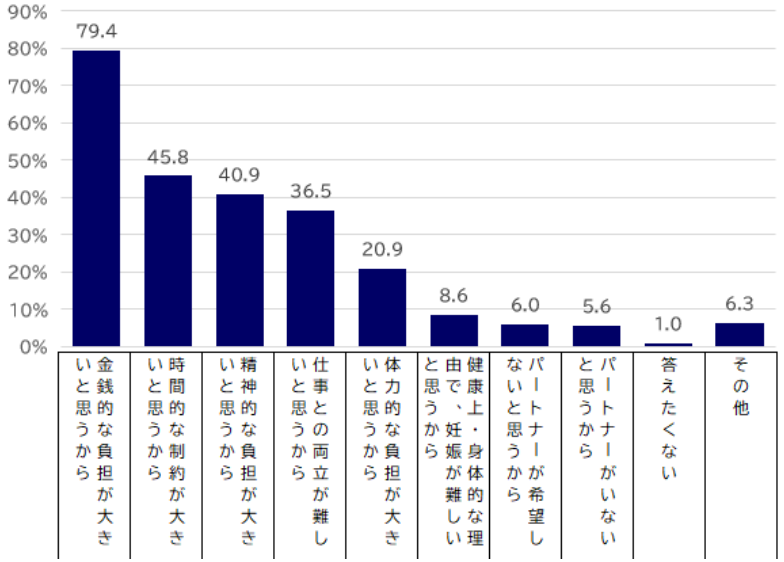
問９　こどもを希望しない理由（全体）

・「金銭的な負担が大きいと思うから」（79.4%）、「時間的な制約が大きいと思うから」（45.8%）、「精神的な負担が大きいと思うから」（40.9%）、「仕事との両立が難しいと思うから」（36.5%）と続く。

◆調査結果

【設問】

あなたが、こどもを希望しない理由について、
あてはまるものを3つまで選んでください。
※問4でこどもを持たないと答えた人



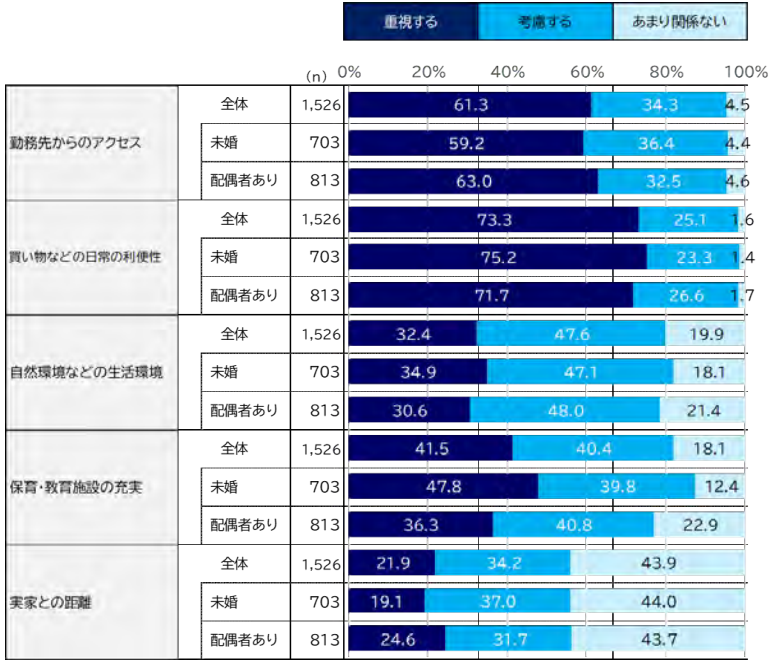
問10　結婚直後の居住場所を選ぶ際の条件

・全体では「買い物などの日常の利便性」（73.3%）、「勤務先からのアクセス」（61.3%）、「保育・教育施設の充実」（41.5%）と続く。
・未婚と配偶者ありを比較すると、「保育・教育施設の充実」は未婚の方が重視すると回答した割合が高く、「実家との距離」は配偶者ありの方が重視すると回答した割合が高い。

◆調査結果

【設問】

あなたが、結婚（パートナーとの同居を含む）直後に居住する（した）場所として重要視する（した）条件について、それぞれあてはまるものを1つずつお選びください。
※問4で結婚すると答えた人



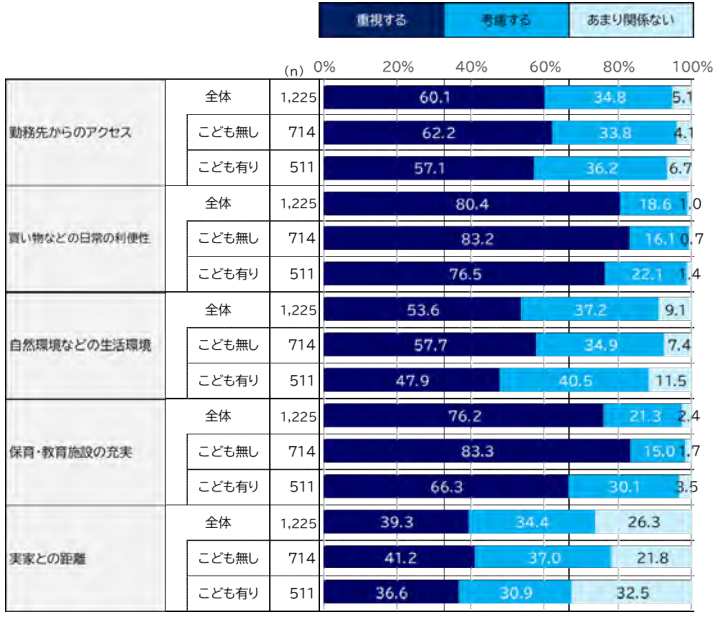
問11　子育て期間の居住場所を選ぶ際の条件

・全体では「買い物などの日常の利便性」（80.4%）、「保育・教育施設の充実」（76.2%）、「勤務先からのアクセス」（60.1%）と続く。
・「自然環境などの生活環境」（53.6%）「実家との距離」（39.3%）については、結婚直後の居住場所を選ぶ際の条件での回答（生活環境32.4%、実家との距離21.9%）と比べて、それぞれ21.2ポイント、17.4ポイントアップしている。
・こどもの有無で比較すると、「自然環境などの生活環境」、「保育・教育施設の充実」は、こども有りの方が「重視する」と回答した割合が低い。

◆調査結果

【設問】

あなたが、子育て期間に居住する（した）場所として重要視する（した）条件について、それぞれあてはまるものを1つずつお選びください。
※問4でこどもを持つと答えた人



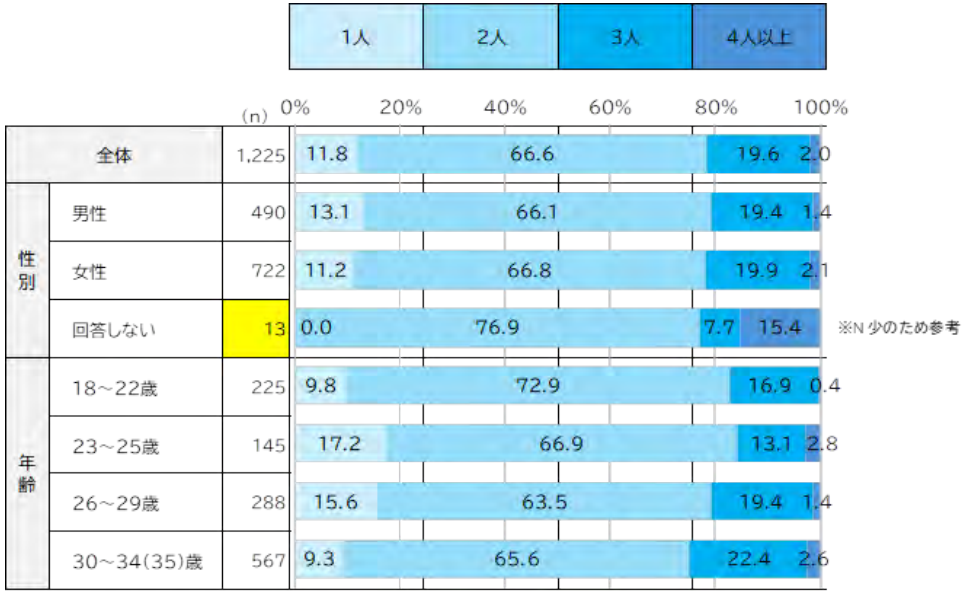
問12　理想のこどもの人数

・「2人」と回答した割合が最も多く、全体の3分の2を占める。
・23歳以上では年代が上がるほど「1人」と回答する割合が低くなり、「3人」と回答する割合が高くなっている。

◆調査結果

【設問】

あなたが、希望する理想のこどもの人数は何人ですか。最も近いと思われるものを1つだけ選んでください。
※問4でこどもを持つと答えた人



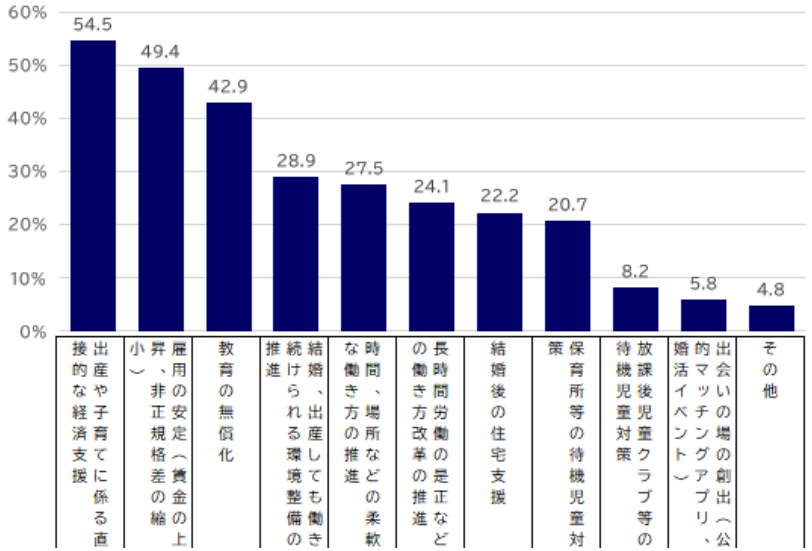
問13　結婚・妊娠・出産・子育て支援で横浜市や政府に望むこと（全体）

・「出産や子育てに係る直接的な経済支援」、「雇用の安定」、「教育の無償化」については、割合が高い一方で、「出会いの場の創出」については、割合が低い。

◆調査結果

【設問】

結婚・妊娠・出産・子育ての希望を実現するために、あなたが横浜市や政府に実施して欲しい政策は何ですか。とくにあてはまるものを3つまで選んでください。



横浜市若者世代の将来像に関する意識調査の概要（インタビュー）

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER
YOKOHAMA

【調査の目的】

横浜市若者世代の将来像に関する意識調査（アンケート）について、質的な調査を通じて、意識の深堀を行う。

〇調査方法
世代毎のグループインタビュー

〇調査期間
令和7年1月

〇調査対象者
19名（「市民生活・needs調査」のアンケート調査で回答した438人から居住エリア、性別等の属性を考慮し、偏りが生じないよう抽出）

インタビュー調査の結果

◆子育てと仕事の関係の理想と現実のギャップについて（Copilotによる要約）

20代～30代の若者たちは、結婚や子育てに対して漠然とした不安や現実的な障壁を感じています。特に経済的な不安が大きく、収入の不安定さや物価上昇に対する賃金の低さが、結婚や子育てへの意欲を低下させています。また、SNSなどで発信されるネガティブな情報が将来へのイメージを暗くし、行動をためらわせる要因にもなっています。

さらに、共働きが一般化する中で、育児の分担や夫婦の時間の確保に対する懸念もあり、理想のキャリアやライフスタイルとの両立が難しいと感じる人もいます。出会いの機会の減少や、推し活など個人の趣味・価値観の多様化も、結婚や子育てを「当然の選択」ではなく「選択肢の一つ」として捉える傾向を強めています。

このような背景から、結婚や子育てに前向きになれず、慎重に考えすぎるうちに時間が過ぎてしまうという声も多く聞かれます。

◆結婚のイメージについて（Copilotによる要約）

20代～30代の若者は、結婚や子育てに対してネガティブなイメージを持つ傾向があり、その背景にはSNSやインターネットでの情報の影響が大きくあります。特に既婚者の投稿にネガティブな内容が多く、結婚に対する悪い印象が強まっています。また、実際に経験していないことへの不安や、周囲の話から影響を受けることも多く見られます。

日本社会ではポジティブな話が共有されにくい傾向があり、結果として不安が増幅されているという指摘もあります。さらに、自分の趣味や生活リズムを大切にしたいという価値観や、自由が制限されることへの抵抗感も、結婚や子育てに対するネガティブな感情につながっています。

一方で、結婚や家族がいることで仕事や生活へのモチベーションが高まるというポジティブな意見もあり、情報の受け取り方や個人の価値観によって印象は大きく異なります。

インタビュー調査の結果

◆こども・子育てのイメージについて（Copilotによる要約）

20代の若者たちは、子育てに対して複雑な感情を抱いています。多くの人が、ニュースやSNSなどからネガティブな情報を受け取り、経済的負担や時間の制約、将来への不安などから子育てに対してプレッシャーや否定的なイメージを持っています。一方で、子育てを通じて得られる成長や生活のモチベーション、将来の安心感など、ポジティブな側面も感じている人もいます。
情報の入手経路によってイメージが左右される傾向があり、支援情報が届きにくいことも不安の要因となっています。全体として、子育てに対するイメージはネガティブがやや優勢ながらも、周囲の経験や環境によってポジティブな見方も存在しています。

◆結婚・妊娠・出産・子育て支援で横浜市や政府に望むことについて（Copilotによる要約）

20代～30代の若者は、結婚や子育てに対して強い経済的な不安を抱えており、行政には「出会いの場の提供」よりも「金銭面での直接的な支援」を優先してほしいという声が多く見られます。物価上昇に対して賃金が追いつかず、結婚や子育てを現実的に考えるには経済的な安定が不可欠とされています。
また、子育ては長期的な取り組みであり、結婚よりも継続的な行政支援が必要だという認識もあります。一方で、出会いの場の減少が交際の機会を減らしているという指摘もあり、行政による安心感のある出会い支援（街コンや本人確認付きマッチングアプリなど）への期待も一部にあります。
さらに、自治体ごとの支援格差に対する不満もあり、国が一律で支援を行うことで、住む場所による不公平をなくすべきだという意見も出ています。

横浜市若者世代の将来像に関する意識調査の概要（設問項目）

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER
YOKOHAMA

問1	あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。「0（まったく満足していない）」から「10（十分に満足している）」の数字を選んでください。	0（全く満足していない） 1　2　3　4　5　6　7　8　9 10（十分に満足している）
問2（1）	あなたの思いや気持ちについて、次のことがどのくらいあてはまりますか。それぞれの項目について、もっともあてはまるものを1つだけ選んでください。（1）自分のことが好きだ	とても思う　思う　あまり思わない　思わない
問2（2）	あなたの思いや気持ちについて、次のことがどのくらいあてはまりますか。それぞれの項目について、もっともあてはまるものを1つだけ選んでください。（2）自分の将来が楽しみ	とても思う　思う　あまり思わない　思わない
問3	子育てと仕事との関係で、あなたの理想の生き方は次のどれですか。最も近いと思われるものを1つだけ選んでください。	・結婚せず（パートナーを持たず）、仕事を続ける ・結婚する（パートナーを持つ）、こどもは持たず、仕事を続ける ・結婚する（パートナーを持つ）、こどもは持たず、結婚の機会に退職し、その後は仕事を持たない ・結婚し、こどもを持ち、仕事を続ける ・結婚し、こどもを持つ。結婚あるいは出産の機会に一旦退職し、子育て後に再び仕事を持つ ・結婚し、こどもを持つ。結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない ・答えたくない ・その他

横浜市若者世代の将来像に関する意識調査の概要（設問項目）

問4	子育てと仕事との関係で、理想は理想として、実際になりそうな（既になっている）生き方は次のどれですか。最も近いと思われるものを1つだけ選んでください。	・結婚せず（パートナーを持たず）、仕事を続ける ・結婚する（パートナーを持つ）、こどもは持たず、仕事を続ける ・結婚する（パートナーを持つ）、こどもは持たず、結婚の機会に退職し、その後は仕事を持たない ・結婚し、こどもを持ち、仕事を続ける ・結婚し、こどもを持つ。結婚あるいは出産の機会に一旦退職し、子育て後に再び仕事を持つ ・結婚し、こどもを持つ。結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない ・答えたくない ・その他
問5	あなたが思う結婚のイメージはどのようなものですか。あてはまるものを3つまで選んでください。	・楽しみや喜び ・自身の成長 ・精神的な安らぎ ・親や周囲の安心 ・義務や責任、世間体 ・拘束感や閉そく感 ・負担や苦労 ・その他

横浜市若者世代の将来像に関する意識調査の概要（設問項目）

問6	あなたが思うこどもや子育てのイメージはどのようなものですか。あてはまるものを3つまで選んでください。	・楽しみや喜び ・自身の成長 ・精神的な安らぎ ・親や周囲の安心 ・義務や責任、世間体 ・拘束感や閉そく感 ・負担や苦労 ・その他
問7	あなたが思う仕事を選ぶうえで大事にすること(したこと)はどのようなものですか。あてはまるものを3つまで選んでください。	・楽しく働きたい ・個人(家庭)の生活と仕事を両立させたい ・人のためになる仕事をしたい ・自分の夢のために働きたい ・収入さえあればよい ・社会に貢献したい ・生まれ育った地域に恩返しをしたい ・プライドの持てる仕事をしたい ・出世したい ・答えたくない ・その他

横浜市若者世代の将来像に関する意識調査の概要（設問項目）

問8	あなたが、将来結婚しないと思う理由について、あてはまるものを3つまで選んでください。 ※問4で結婚しないと答えた人	・恋人・パートナーがいないから/見つからないと思うから ・1人でいる方が、精神的な負担が少ないから ・自由を失いたくないから ・こどもを育てたいと思っていないから ・経済的に厳しいと思うから ・家庭を築くよりも優先したいことがあるから ・家事などの生活における負担が増えるから ・結婚せず、自分の親や兄弟姉妹と暮らしたいから ・周りの人にしない方がよいと言われるから ・答えたくない ・その他
問9	あなたが、こどもを希望しない理由について、あてはまるものを3つまで選んでください。 ※問4でこどもを持たないと答えた人	・金銭的な負担が大きいと思うから ・精神的な負担が大きいと思うから ・時間的な制約が大きいと思うから ・体力的な負担が大きいと思うから ・仕事との両立が難しいと思うから ・パートナーがいないと思うから ・パートナーが希望しないと思うから ・健康上の理由・身体的な理由で、自分またはパートナーの妊娠が難しいと思うから ・答えたくない ・その他

横浜市若者世代の将来像に関する意識調査の概要（設問項目）

問10	あなたが、結婚（パートナーとの同居を含む）直後に居住する（した）場所として重要視する（した）条件について、それぞれあてはまるものを1つずつお選びください。 ※問4で結婚すると答えた人	①勤務先からのアクセス　重視する、考慮する、あまり関係ない ②買い物などの日常の利便性　重視する、考慮する、あまり関係ない ③自然環境などの生活環境　重視する、考慮する、あまり関係ない ④保育・教育施設の充実　重視する、考慮する、あまり関係ない ⑤実家との距離　重視する、考慮する、あまり関係ない ⑥その他
問11	あなたが、子育て期間に居住する（した）場所として重要視する（した）条件について、それぞれあてはまるものを1つずつお選びください。 ※問4でこどもを持つと答えた人	①勤務先からのアクセス　重視する、考慮する、あまり関係ない ②買い物などの日常の利便性　重視する、考慮する、あまり関係ない ③自然環境などの生活環境　重視する、考慮する、あまり関係ない ④保育・教育施設の充実　重視する、考慮する、あまり関係ない ⑤実家との距離　重視する、考慮する、あまり関係ない ⑥その他
問12	あなたが、希望する理想のこどもの人数は何人ですか。最も近いと思われるものを1つだけ選んでください。 ※問4でこどもを持つと答えた人	1人　2人　3人　4人以上

横浜市若者世代の将来像に関する意識調査の概要（設問項目）

問13	結婚・妊娠・出産・子育ての希望を実現するために、あなたが横浜市や政府に実施して欲しい政策は何ですか。とくにあてはまるものを3つまで選んでください。	・雇用の安定（賃金の上昇、非正規雇用と正規雇用における給与の差の縮小） ・長時間労働の是正などの働き方改革の推進 ・時間、場所などの柔軟な働き方の推進 ・結婚、出産しても働き続けられる環境整備の推進 ・結婚後の住宅支援 ・出産や子育てに係る直接的な経済支援 ・保育所等の待機児童対策 ・放課後児童クラブ等の待機児童対策 ・教育の無償化 ・出会いの場の創出（公的マッチングアプリ、婚活イベント） ・その他

CITY OF YOKOHAMA

次世代活躍推進特別委員会
令和７年９月２９日
こども青少年局

青少年の地域活動拠点づくり事業について

こども青少年局

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

目次

1　事業概要

2　行政計画上の位置付け

3　事業の効果と課題

4　こども・若者の居場所づくりの今後の方向性

1　事業概要

No	項目	事業内容等
(1)	事業開始	平成19年度
(2)	事業目的	①中・高校生世代を中心とした青少年が、安心して気軽に集い、様々な体験や交流を行う。 ②個々の青少年の状況に応じた対応を行うことを通じて、抱える悩みや課題が深刻にならないよう、予防的支援や早期支援に取り組む。
(3)	実施手法	横浜市が運営団体を選定し、事業補助を行う。
(4)	運営主体	NPO法人等の民間等団体
(5)	実施状況	市内７区（南、保土ケ谷、磯子、金沢、青葉、都筑、栄区）で実施
(6)	実施場所	本市所有施設のほか、民間ビル等で実施
(7)	開所日時	週３日以上、原則15時～20時 ※都筑区は10時～、南区は、火・木・金は12時～21時、水・土・日は９時～21時

1　事業概要

（8）事業内容

1

青少年が気軽に集い、自由に活動する場の運営

（フリースペース、自習室、スタジオ等）

イソカツ（磯子区）
フリースペースレイアウト

2

青少年が仲間や多世代と交流する機会の提供

（街づくりプロジェクト、美術展等）

カナカツ（金沢区）
カナカツ美術展の様子

3

青少年を対象とした地域資源を活用した社会参加プログラムの実施

（ボランティア体験等）

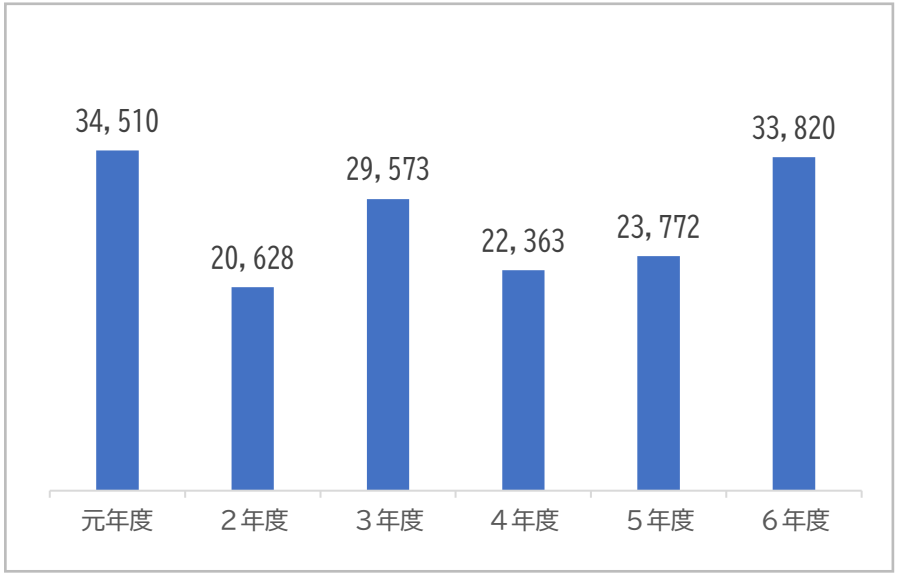
つづきMYプラザ（都筑区）
令和６年度「はあとdeボランティア修了式」の様子

1　事業概要

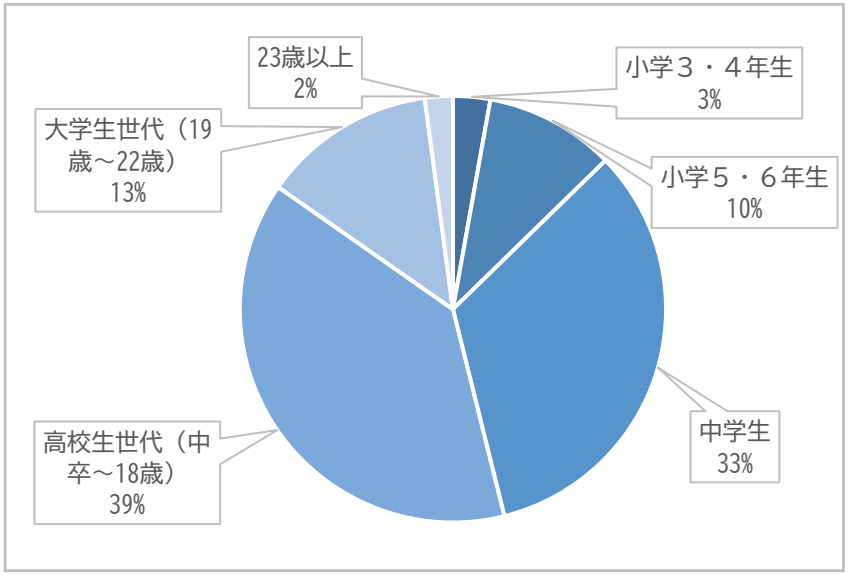
（9）利用状況

コロナの影響により、一時的に利用者数は減少しましたが、徐々に回復しています。
また、利用者の中心は中学生・高校生世代ですが、小学生から大学生以上まで、多様なこどもたちが利用しています。

【延べ利用者数の推移】



【年齢別利用状況】（R6）　〔n=425〕



出所：拠点利用者アンケート（R6）から作成

2　行政計画上の位置付け

○こども、みんなが主役！よこはまわくわくプラン　2025～2029
（第３期横浜市こども・子育て支援事業計画/横浜市こども計画）

施策分野1 全てのこども・子育て家庭への切れ目のない支援

基本施策１	生まれる前から乳幼児期までの一貫した支援の充実
基本施策２	地域における子育て支援の充実
基本施策３	乳幼児期の保育・教育の充実と学齢期への円滑な接続
基本施策４	学齢期から青年期までのこども・若者の育成施策の推進
基本施策５	障害児・医療的ケア児等への支援の充実

◆こども・若者の多様なニーズに応じた居場所づくりや体験活動の充実、多世代との交流促進、地域主体の取組の推進を図ります。

◆こども・若者に関する施策・事業の推進に当たっては、こども・若者の主体性を尊重し、社会参画を促進していくとともに、こども・若者の声を聴く機会を設け、その意見を反映する取組を進めます。

【アウトカムと指標（抜粋）】

アウトカム	指標	直近の現状値（令和５年度）	目標値（令和11年度）
こども・若者が居場所を持ち、多様な体験を重ねることで自身の成長を感じることができる	青少年の地域活動拠点等において利用者の自己肯定感が高まったと感じた割合	63%	70%
多様な地域資源が連携し、ネットワークを構築することで、地域でこども・若者の見守りが充実している	地域で青少年育成の連携・協働を促進するため、（公財）よこはまユースが支援を行った団体数	757団体	877団体

2　行政計画上の位置付け

【わくわくプラン上の主な事業・取組(抜粋)】

こども・若者の居場所づくり

思春期という大きな変化を迎える時期にある**中高生世代の成長を支援するとともに、社会参画に向かう力を養成するため、こどもたちが安心して気軽に集い、同世代・異世代との交流や様々な体験活動を行うことができる「青少年の地域活動拠点」を充実します。**

また、こどもが抱える悩みや問題が深刻な状況にならないよう、**拠点のスタッフが個々の状況に応じた対応をすることで、セーフティネットとしての役割を果たします。**

こども・若者が身近な地域に多くの居場所を持てるよう、様々な地域資源と連携した取組を進めるとともに、**居場所についての広報・普及啓発に取り組みます。**

想定事業量	直近の現状値	令和11年度
青少年の地域活動拠点等※の利用者数	50,316人／年	71,309人／年

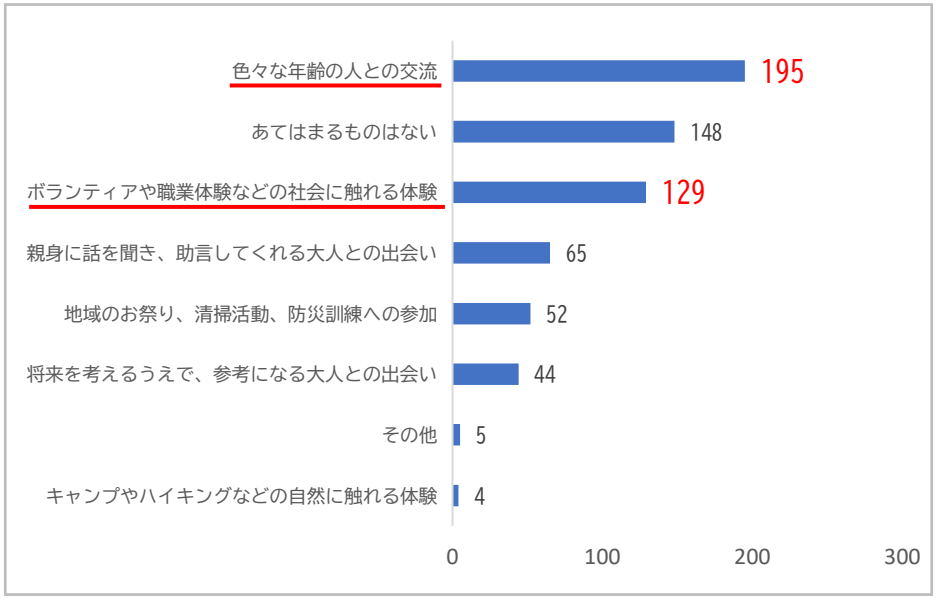
※青少年の地域活動拠点以外に、青少年交流・活動支援スペースさくらリビングの利用者を含む
※直近の現状値(R5)　青少年の地域活動拠点　23,772人＋さくらリビング26,544人＝50,316人

3　事業の効果と課題

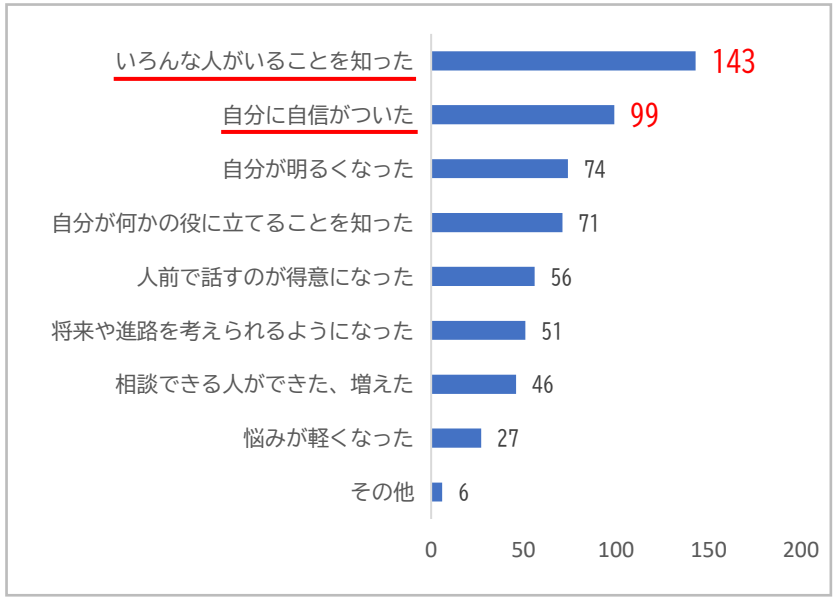
(1) 効果

拠点での様々な人々との交流や社会体験等を通じて、他者への理解が深まるとともに、自分に自信がつくなど、自己肯定感の向上に寄与していると考えられます。

【拠点で体験したこと】〔n=642〕



【体験による自身の変化】〔n=573〕

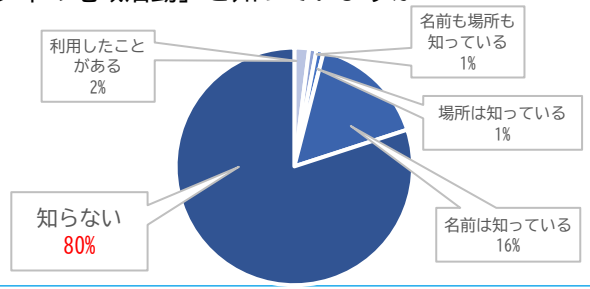
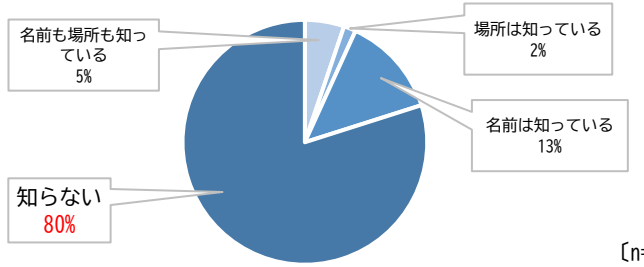
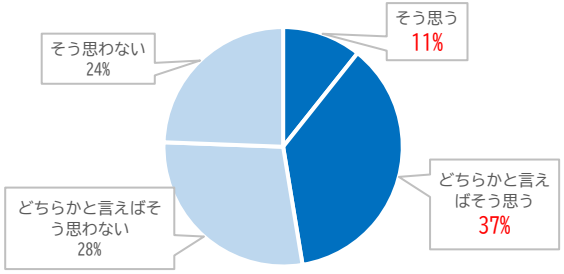
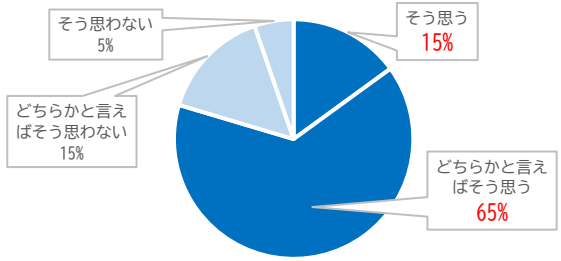


出所：拠点利用者アンケート（R6）から作成
7拠点で425人が回答（小学生54人、中学生142人、高校生164人、大学生等65人）

3　事業の効果と課題

（2）課題

中高生・保護者ともに約8割が拠点を知らないと回答しており、認知度の低さが課題となっています。一方で、中高生の約半数、保護者の約8割は拠点の利用意向があります。

	中高生	保護者
認知度	Q「青少年の地域活動」を知っていますか  〔n=8,822〕	Q「青少年の地域活動」を知っていますか  〔n=4,889〕
利用意向	Q「青少年の地域活動」を利用したいと思いますか  〔n=8,625〕	Qお子様に「青少年の地域活動」を利用してほしいと思いますか  〔n=4,698〕

出所：「中高生の放課後の過ごし方や体験活動に関するアンケート」調査　分析結果報告書（平成31年3月、こども青少年局青少年育成課）

3　事業の効果と課題

（3）市民の声

「わくわくプラン」策定にあたり令和6年度に実施した市民意見募集では、居場所に関する多くのご意見をいただいており、こども・若者の居場所の充実に取り組んでいく必要があります。

項目	主な意見
1. こどもが安心して過ごせる場所が必要	「家庭や学校以外に、安心して過ごせる場所がほしい」 「誰にも否定されず、自由に過ごせる空間が必要」
2. 放課後や休日の居場所の不足	「放課後に行ける場所が限られている」 「中高生が利用できる居場所が少ない」
3. 地域のつながりを感じられる場所がほしい	「地域の大人と自然に関われる場所があるといい」 「こども食堂のような、世代を超えた交流の場が必要」
4. 情報が届いていない	「居場所があることを知らなかった」 「もっとわかりやすく情報を発信してほしい」
5. こどもの声をもっと反映してほしい	「大人が決めた居場所ではなく、こどもが望む場所をつくってほしい」 「こどもが主役になれるような運営をしてほしい」

出所：こども、みんなが主役！よこはまわくわくプラン （第3期横浜市こども・子育て支援事業計画/横浜市こども計画）
素案・市民意見募集（パブリックコメント）実施結果からCopilotにより作成

4　こども・若者の居場所づくりの今後の方向性

（1）今後の方向性

わくわくプランに基づき、こども・若者の成長を支える基盤づくりとして、青少年の地域活動拠点をはじめとする「こども・若者の居場所づくり」を進めていきます。

1　多様なニーズに応じた居場所づくり

こども・若者の健全な成長のためには、家庭や学校以外の第三の居場所が大切です。
こども・若者は、多様な体験や、様々な世代の人との交流の中で自己決定力を身に付けていきます。
全てのこども・若者のウェルビーイングを支えるため、多様なニーズに応じた居場所づくりや体験活動の充実、多世代との交流促進等を進めます。

2　セーフティネット的役割

居場所は、孤独や孤立の問題とも深く関係しています。
当事者であるこども・若者の声を聴きながら、その視点に立ち、身近に多くの居場所が持てるよう取り組んでいきます。

3　地域資源の連携による社会体験の充実

青少年の育成支援に係る中間支援組織である（公財）よこはまユースが中心となり、青少年の地域活動拠点や市民利用施設等の地域資源が連携することで、体験活動等のプログラムの提供、地域の大人と交流する機会やボランティアなど社会体験等の充実を図ります。

4　こども・若者の居場所づくりの今後の方向性

（2－1）具体的な取組：多様なニーズに応じた居場所づくり

青少年の地域活動拠点でのこどもの意見を聴く取組や、居場所に関するニーズ等を把握するための調査などを踏まえて、居場所の充実に向けた取組を進めます。

①こどもの居場所づくりワークショップ

青少年の地域活動拠点において、こども・若者の声を聴くための取組を進めます。

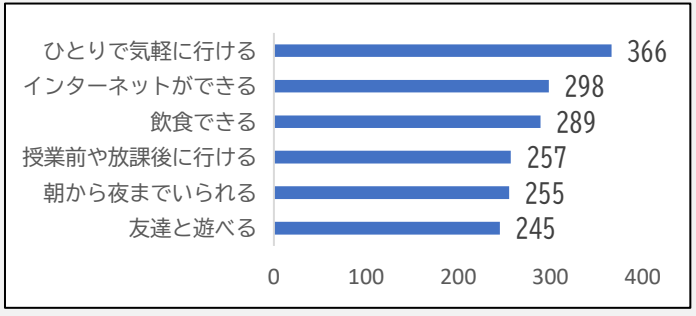
令和６年度は南区の青少年の地域活動拠点　M-base（エムベース）において、横浜国立大学の藤原准教授をファシリテーターに、こどもたちが主役のワークショップを開催しました。小学生から大学生まで18名のこどもたちが参加し、みんなが行きたくなる居場所とは、どんなところなのか意見交換し、まち探検など、ワイワイと楽しみながら行いました。

南区でのワークショップの様子（R6.8）

②「居場所」に関する調査報告

市内の高校で校内カフェを実施している３校（横浜総合高等学校・戸塚高等学校定時制・みなと総合高等学校）に通う生徒を対象に、「居場所」に求める機能や役割について調査しました。（R６年３月よこはまユース）引き続き、こども・若者のニーズを把握し、居場所づくりに活かしていきます。

○居場所にあったらよい機能・役割（上位６つ抽出）N＝689人



4　こども・若者の居場所づくりの今後の方向性

（2－2）具体的な取組：セーフティネット的役割

学校施設や青少年育成センターなどの既存の公共施設等を活用した身近な場所での居場所づくりを進めます。

①校内居場所カフェ

校内居場所カフェとは、地域・学校が連携して、校内に誰でも無料で利用できる居場所カフェの運営を通じて、生徒にとって身近な相談・交流の場を提供し、生徒の様々な課題を早期に発見・支援するための場づくりです。

現在、横浜市立横浜総合高等学校、横浜市立戸塚高等学校定時制、横浜市立みなと総合高等学校の３校で運営されています。

Ｒ７年８月には、横浜総合高等学校の「ようこそカフェ」活動10周年を記念した報告会を開催しました。

校内居場所カフェの様子

②中高生のための理想の自習室　@青少年育成センター

「学校が終わった時間に、みんなで交流したり、勉強に集中したりできる場所」を身近な地域の中につくる取組を、Ｒ７年７月から青少年育成センターで開始しました。今後、センターでの利用状況等を踏まえ、他の公共施設での実施に向けた検討を進めていきます。

ボランティア募集のチラシ

4　こども・若者の居場所づくりの今後の方向性

（2－3）具体的な取組：地域資源の連携による社会体験の充実

よこはまユースと連携し、青少年の地域活動拠点の広報活動や支援者の育成を進めます。

①利用者に届く広報の工夫

～学生広報サポーターによる地域活動拠点のＰＲ（よこはまユース）～

青少年の地域活動拠点の利用者を増やしていくため、中学生・高校生が施設を取材し、SNSでの発信やパンフレット作成などの広報活動を行います。

令和７年度は、中高生17人がサポーター役の大学生８人と一緒に活動しています。

活動ミーティングの様子

②こども・若者どこでも講座（よこはまユース）

よこはまユースでは、青少年が抱える課題を理解し、青少年の育ちを地域全体で見守る環境づくりを目的に、市民団体及び地域グループ等に講師を派遣する『知っておきたい！こども・若者どこでも講座』を実施しています。

講座案内チラシ